

2022年6月26日

年間第13主日

菊地功大司教 メッセージ

列王記は、エリヤが主からの命令に従い、自らの後継者であるエリシャを召し出す様子を伝えています。エリヤとエリシャにとって人生の大きな転換点であるにもかかわらず、全てが粛々と、というよりも、淡々と進められていった様が記されています。神の聖霊の導きに対して、二人が完全に信頼を寄せているからにほかなりません。

ガラテヤ人への手紙でパウロは、キリストによって罪の枷から解放され、自由の身となったのだから、奴隷のくびきに再び繋がれることのないようにと諭します。パウロは、そのために必要なことは、「霊の導きに従って歩」む事だと指摘します。

ルカ福音は、イエスの言葉に従って歩む者に、徹底的な決断を促す言葉を記します。

「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」

現実の社会で生きているわたしたちにとって、かなり厳しい言葉でもあります。

そもそもわたしたちの人生は、すべからく選択の連続です。大なり小なり、わたしたちは常に選択に直面し、その都度、進むべき道を選びとるために決断を迫られます。もちろん自信を持って行う選択もあるでしょう。しかし、先を見通すことが難しい状況にあっては、どうしても不安が先に立ち、決断にも躊躇してしまうことがしばしばあります。まさしくそういったときに、わたしたちは「鋤に手をかけ」たは良いものの、不安に駆られて「後ろを顧み」てしまいます。

第二バチカン公会議の教会憲章は、「聖なる方から油を注がれた信者の総体は、信仰において誤ることができない」と記し、その特性は、「司教をはじめとして全ての信徒を含む信者の総体が信仰と道徳のことがらについて全面的に賛同するとき、神の民全体の超自然的な信仰の感覚を通して現れる」と記します（12）。

いま教会がともに歩んでいるシノドスの道も、この信仰の感覚に教会共同体が信頼を寄せ、聖霊の導きに全幅の信頼を寄せながら、その導きに身を委ねることの重要性を強調します。その上で、シノドスの準備文書は、「霊の働きを通して、使徒たちに由来するこの聖伝は、……教会の中で進展し、それによって神の民は、伝えられた事物やことばの理解の中で成長できる」としてします。

わたしたちは、洗礼を受ける事によってキリストの身体に結ばれ、聖体をいただくことによって一致の交わりに招かれています。わたしたちが一致のうちに結ばれるキリストのからだである教会共同体は、聖霊によって導かれています。わたしたちは、すでに鋤に手をかけています。教会共同体の信仰の感覚に信頼し、教会が示す誤りのない道を、勇気を持って、しかし淡々と、前に向かって歩み続けていきたいと思えます。

6月24日金曜日はイエスのみこころの祝日でした。6月はイエスのみこころの月でもあります。全人類に対する神の愛といつくしみを象徴するのは、イエスのみこころです。その深い愛といつくしみのみこころでわたしたちを包み込み、まもり導いてくださる主の思いに信頼することで、聖霊の導きを、この世の価値観や自分自身の独善的なおもいと比較するような誤った選択をすることのないようにしましょう。そのためにも、教会に働かれる聖霊の導きをわたしたちに感じさせる、教会に満ちあふれる信仰の感覚を大切にしたいと思えます。

6月29日は、聖ペトロ聖パウロの祝日です。この偉大な2人の使徒の働きに思いを馳せると同時に、わたしたちを導かれるペトロの後継者である教皇様のためにお祈りいたしましょう。